

# 用件の会話における言いさし表現について — 言いさし表現とその後の相手の反応を中心に —

曹 英南

## 要 旨

本稿では用件の電話会話をデータとして話者の用いる言いさし表現及びそれに後続する発話の談話上の機能を明らかにすることを目的とした。結果、言いさし表現には次の三つの談話機能があることが分かった。(1)話者自身のことばが相手にきちんと認識されているか、相手の反応を伺う「相手伺い」、(2)話者自身がこれから話す談話を整理するため、あるいは話すことが思い出せず、思考が続いていることを示す「話者思考中」、(3)相手からの割り込みがあり、途中で話が中断されたことから、ターンを譲る「ターン譲り」の三つの談話機能である。さらに後続する発話については、先行話者の発話を促したり、正しく理解したかどうか確認したりするという談話上の機能を持ち、円滑なコミュニケーションを実現するために多く行われていることが分かった。

【キーワード】 相手伺い 話者思考中 ターン譲り 談話の促進 談話の編集

## 1. はじめに

文末表現は話し手の態度が現われるところであり、円滑なコミュニケーションのためには実質的な情報伝達以上の重要な働きをしていると思われる。水谷(1989)は文末の省略を問題視し、以下のように言っている。「日本語の実際の話しことばでは、文末に省略が多いと感じられることが外国人学習者にとっては問題になる」(p46)。例えば日本人の話者は話が終わり、ターンを渡したつもりであるのに対し、相手の外国人はまだ話が終わっていないと判断し、話の続きをじっと待っているようなケースである。実際の日本人同士の会話を観察してみると、話者の発話の途中に、頻繁なあいづちがうたれたり、話者の発話がまだ完全には終わっていないにも関わらず、相手の実質的な発話が始まって、発話が中断させられることが多い。会話に参加していない場合にこのような発話を聞いていると話者の「フェイス」<sup>1</sup> (Brown & Levinson:1978) がおかされているように思われる。

そこで本稿では用件を伝えるというはっきりした目的がある会話において、話者の発話

が終わっていないのに相手の実質的な発話が始まる場合、即ち言いさし表現はどのような状況で起こるか、またその後の相手の反応はどのようなものか、明らかにしていく。

## 2. 先行研究及び本研究の位置付け

水谷（1993）では日本語による会話は共話的なスタイルを基本とすると述べており、以下のような特徴を上げている。(1)話し手は自分で言い始めた文を必ず自分で完結させるとは限らない、(2)自分の発話を完結させず、相手の理解にゆだねる形式は、相手側からすれば先行話者の発話をすすんで引きとって完結させることへと自然に繋がって行く。水谷(同上)では言いさし表現(水谷の用語 *leaving unsaid*)を「自分の発話を完結させず、相手の理解にゆだねる形式」(p6)と定義しているが、これでは話者だけに焦点が当てられることになる。会話というのは話者と相手とのインターアクションであり、話者が「自分の発話を完結させず、相手の理解にゆだねる」つもりでなくても、相手の割り込みなどにより結果的に言いさし表現になる場合も多いと思われる。

他方、池田（1995）では言いさし表現の一つの機能は婉曲に表現することであるとし、依頼や苦情、反対意見の表明等、言いにくいことを言わなければならない場合には、「～んですけど・・・」のような形が使われるとし、次のように例を上げて述べている (p129)。

A: あの明日のことなんですけど・・・

B: はい。

A: 急用ができてまして・・・

B: いらっしゃれない?

A: ええ、申し訳ありません。

「話し手は文の途中で一度口を閉ざして、言いたいことを相手に察してもらおうとする」と同時に相手の反応を探りながらコミュニケーションを続けようとするのである。

池田(同上)では言いさし表現の一つの機能として言いにくいことを婉曲に言うとしているが、言いにくいことを言うような場面ではない会話ではどのような機能で使われているのか、「婉曲に言う機能」以外にも様々な機能があるのではないかと思われる。

そこで、本稿では自然談話をデータとして、言いさし表現とそれに後続するターンの最初の発話がどのような機能をもつか、分析を行うことを試みる。

### 3. 研究方法

#### 3.1 言いさし表現の定義

言いさし表現とは述部が省略されていると見られる発話であり、それで発話が完結せず、不完全な感じがするものの総称である。この表現が出現すると、直ちに話者が交替する。ただし、その場合、交替した話者は「うん」「はい」のようなあいづち的発話を使わずに、それ以外の表現を使って自分の発話を始める。

#### 3.2 分析の枠組み

機能のとらえ方として、熊谷 (1997) の「行為的機能」と「談話構成上のはたらき」(p29) を以下のように修正を加え、再構築した。それは言いさし表現の特徴がよりはっきりしてくるからである。「行為的機能」の下位に 3.確認注目要求、4.確認予測要求、5.予測表示、8.謝罪表示を新たにもうける。さらに「談話構成上のはたらき」の下位に 5.談話の促進、6.談話の編集を新たにもうける。

##### 「行為的機能」

1. 情報要求 (相手に情報の提供を求める)
2. 行為要求 (相手の行動を促す)
3. 確認注目要求 (相手の発話から導かれる事柄を確認要求する)
4. 確認予測要求 (相手の発話からその次のことばあるいは共有知識を確認する)
5. 予測表示 (相手の発話からその次のことばを予測する)
6. 陳述・表出 (情報内容を述べる)
7. 注目表示 (相手のことば、何らかの存在などを認識したことを示す)
8. 謝罪表示 (相手に感謝またはお詫びをする)

##### 「談話構成上のはたらき」

1. 談話の開始
2. 談話の再開 (いったんとぎれていた談話を再び始める)
3. 談話の終結
4. 談話の中断 (相手の発話を中断するなどして、談話における情報の流れを一時的に中断させる)
5. 談話の促進 (相手の発話を促すなどして、談話における情報の流れを促進させる)

## 6. 談話の編集（相手の発話から導かれる事柄を再確認するなどして、談話における情報の流れを止める）

### 3.3 分析の単位と機能のとらえ方

分析の単位は熊谷（1997）に基づき「move」という単位を用いる。熊谷（同上）によれば『move』は、従来チェスなどでの指し手や、行動上の出方などを意味するが、それが会話分析に応用されて、相手に対するはたらきかけ、すなわち質問、依頼、断り、などの行為的機能を担う最小の単位として用いられている」（p25）とある。本稿では例えば、話者が「ごめん、ちょっと待って」と発した場合、「ごめん」は「謝罪表示」、「ちょっと待って」は「行為要求」とし、「謝罪表示+行為要求」と示す。

ザトラウスキー（1993）では「会話中の個々の発話は会話の参加者の共同作業によって作られるものである・・前の話者の発話に対する次の話者の理解の仕方が、その発話に反映される。参加者同士の相互作用によるフィードバックは、会話の分析者にとって、分析の正しさを証明する『証拠』になる。」（p36-38）としている。本稿ではこれにしたがひ、談話機能を、後続する発話に現われる相手の発話を手がかりに判断することとした。

### 3.4 分析資料

本稿の分析対象の資料は大学院生がクラスメートに連絡事項を伝達する6つの電話会話である。電話は、普段連絡網をまわすとき、利用されることが多く、音声だけを手がかりに話が進められる非対面という点で、場面条件も同一である。内訳は同一話者が4人のクラスメートに同一内容の連絡網をまわしている会話が4つ、次回のゼミについての連絡事項の会話、依頼についての連絡事項の会話が各々1つの合計6つである。いずれも女性同士である。話題は主に修士論文の発表会の後で行われる先輩の追い出しコンパについて、打ち合わせのための日程を伝えるものである。以下の表に話者名と話された時間を示す。

話者名	時間
話者 A/話者 B	3 分 22 秒
話者 A/話者 C	4 分 59 秒
話者 A/話者 D	3 分 58 秒
話者 A/話者 E	5 分 45 秒
話者 F/話者 G	4 分
話者 F/話者 J	5 分 52 秒
合計	26 分 36 秒

### 3.5 文字化の原則

発話の単位：話者が交替するたびに改行する。発話者の区別のために、発話の前に A、B、C、D、E の記号を記した。

- [           ] : 相手の発話との重なりを示す。
- ×××       : 聞き取り不明の発話を示す。
- =           : ポーズなしで相手の発話の始まりを示す。
- ?           : 上昇調のイントネーション
- @           : 笑い

## 4. 分析及び結果

### 4.1 言いさし表現の談話機能

言いさし表現がどのような談話機能を持っているか、聞き手の反応を手がかりに分析した結果、(1)「相手伺い」(2)「話者思考中」(3)「ターン譲り」の三つの談話機能に分類できた。ただし、談話の流れがきちんと把握できないものもあり、そのとき出現した言いさし表現は分析外とした。以下に具体例を示す。

(1) 「相手伺い」の言いさしは話者自身のことばが相手にきちんと認識されているか、相手の反応を伺うものである。「相手伺い」の言いさしは集まる日と時間を伝えるとき、多く現われた。以下の例1)において 1A は集まる日である「2月8日」と言って、相手に

正しく認識されているか、反応を伺っている。それに対し 2C で「2月8日の」と繰り返す形の確認注目要求をする。

例 1)

1A: <u>ちょっと長いんだけど、2月8日の、</u>	相手伺い
2C: 2月8日の、	確認注目要求
3A: うん、修論発表会の後で、	注目表示、陳述・表出
4C: はい。	注目表示
5A: あの、M2の追い出しコンパをします。	陳述・表出

(2) 「話者思考中」の言いさしは話者自身がこれから話す談話を整理するため、あるいは話すことが思い出せず、思考が続いていることを示す。以下の例 2) の 2C は話者自身が話すことが思い出せず、思考が続いている場合である。2C で「2月3日っていうとえっと」と2月3日がどんな日か思い出そうとしている。これはまだ思考が続いている場合で、それに対し 3A で「試験の日」と予測表示をする。

例 2)

1A: 1時、1時か1時半か分からないんだけど、多分1時だったと思うのね。	
2C: あ、そうですか、 <u>2月3日っていうとえっと、</u>	話者思考中
3A: 試験の日。	予測表示

(3) 「ターン譲り」の言いさしは相手からの割り込みがあり、途中で話が中断され、ターンを譲るものである。以下の例 3) は 1A で「・・佐藤さんにストップしてもらって、あたし、あの、あ」とまだ話を続けようとするが、2D の割り込み発話から、1A の話は中断され、ターンを譲る。

例 3)

1A: えっとねえ、山田さんに流してください。	行為要求
<u>それで佐藤さんにストップしてもらって、あたし、あの、あ</u>	ターン譲り
2D: え、佐藤さんには流さなくていいん [ですか?]	確認注目要求

#### 4.2 言いさし表現の後の相手の反応

先に分類した言いさし表現の三つの談話機能のあと、相手はどのような反応をするか、

熊谷 (1997) の「談話構成上のはたらき」の観点から分析をおこなった。結果は以下のとおりである。

言いさしの 談話機能	言いさしの後の談話機能	
	行為的機能	談話構成上のはたらき
相手伺い	確認注目要求	談話の編集
	行為要求+確認注目要求	談話の中断+談話の編集
	注目表示	談話の編集
	謝罪+情報要求+情報要求	談話の編集
話者思考中	行為要求	談話の促進
	確認予測要求	談話の促進
	陳述・表出	談話の促進
	予測表示	談話の促進
ターン譲り	陳述・表出	談話の促進
	確認注目要求	談話の編集
	注目表示	談話の編集
	予測表示	談話の促進
	陳述・表出	談話の中断

(1) 話者の「相手伺い」の言いさしの後、相手の反応は話者の発話から導かれる事柄を再確認するなどして、談話における情報の流れを止め、談話を編集するはたらきをもつ発話が多く見られた。以下の例4) では1Aの相手伺いの言いさし「2月3日、の午前10時から1時、」の後、2Cで「ちょっと待ってくださいね」と行為要求をし、1Aの話を中断させる。その後、「2月3日の？」と確認注目要求により、C自身の認識が正しいかどうか確認する。引き続き、4Cは1Aの発話に対する注目表示であり、「11時から、」と時間を再確認をしている。2C、4Cの発話は談話における情報の流れを止め、談話を編集するはたらきをもっている。

例4)

1A: 2月3日、の午前10時から1時、

相手伺い

2C: ちょっと待ってくださいね、

行為要求/談話の中断

2月の3日の?

確認注目要求/談話の編集

3A: うん。

注目表示

4C: 11時から、

注目表示/談話の編集

5A: 10時から1時?

陳述・表出/談話の編集

6C: 10時から、1時。

注目表示

7A: うん。

注目表示

(2)話者思考中の後の相手の反応は話者の発話を促すなどして、談話における情報の流れを促進させている。

以下の例5)の1Aの「それからM2の人か、」と3Aの「はい、なんかねえ、去年は、」は話者思考中の言いさしであるが、1Aと3Aの次のことばを予測し、2Eの「××プレゼント?」4Eの「記念品?」と確認予測要求をすることにより、談話における情報の流れを促進させている。

例5)

1A: うん、それからM2の人か、

話者思考中

2E: ××プレゼント?

確認予測要求/談話の促進

3A: はい、なんかねえ、去年は、

話者思考中

4E: 記念品?

確認予測要求/談話の促進

5A: お茶太、うん、プレゼントなのよ、

陳述・表出

お茶太のマークのついたハンカチをひとりずつあげた [ん××× 陳述・表出

6E: @@@@ [@@@@

7A @@@@笑わない。 @@@@

行為要求

(3) 相手からの割り込みによりできた「ターン譲り」の言いさしの後、相手は次の二つの傾向を示した。

一つは話者の発話を促すなどして、談話を促進させたり、話者の発話から導かれる事柄を再確認などして、談話を編集する場合である。

以下の例6)と例7)は談話を編集する場合と促進する場合である。例6)は卒業記念品として卒業生たちが購入する品物を何にするか話者と相手が話し合っている。2Eは1Aの「結局、一番実用的なのはお茶のセットとか[そういうもの、」の途中に「あー、お茶の

セットね」と割り込み発話をする。2Eは1Aの発話を認識したことを表す繰り返す形の注目表示であり、談話における情報の流れを止め、編集するはたらきをしている。以下の例7)はコンパの場所をかえてもいいという話題であるが、Aは2Dの「あ、どこかお店、[お店ってこと、]の途中で割り込み発話をする。Aは2Dの「あ、どこかお店」という発話が情報要求であると判断し、3Aで陳述・表出をし、談話における情報の流れを促進させている。

例6)

1A: 結局、一番実用的なのはお茶のセットとか [そういうもの、 ターン譲り  
 2E: あー、お茶のセットね。 注目表示/談話の編集  
 3A: とかっていってました。 陳述・表出  
 4E: はい。 注目表示

例7)

1A: で、場所をかえてもいい、いいそうです。 陳述・表出  
 2D: あ、どこかお店、[お店ってこと、 ターン譲り  
 3A: うんうんそうです、 陳述・表出/談話の促進  
     で、それについてあした、あの、K先生の授業の後で、  
 4D: ええ。  
 5A: みんなで考え、あのう、なんか決めますから、

二つは話者の発話の途中で話し始めて、談話を中断させる場合である。以下の例8)は話者の発話が二つの move からできて、一つの move すなわち「うれしい」という発話が終わり、話者の発話が終わったと判断し、話し始め、談話を中断させる場合である。以下の例9)は1Gで入試を博論と間違えて話し、Fがそれに気付き、6Fで修正をし、5Gの発話を中断する場合である。

例8)

1J: @@@悪いからもう。@@@  
 2F: うれしい、[そしたら。 陳述表出+陳述・表出  
 3J: おくれちゃったから、だからまたあれをコピーして・陳述・表出/談話の中断

例9)

1G: だから、Kさんのメールは、もひとつ博論の、

2F: うん。

3J: みなさん、M2の人たちの、

4F: うん。

5G: みなさん、M2の人たちの、

6F: あ、博論じゃないよ、入試だよ。 @@

陳述・表出/談話の中断

7G: あ、そうそう、は、む、なんだ博士の入試か。

## 5. 終わりに

本稿では用件の電話会話データにおいて言いさし表現とその後の相手の反応が談話においてどのような機能をもつか、分析した。結果、言いさし表現には次の三つの談話機能があることが分かった。(1)話者自身のことばが相手にきちんと認識されているか、相手の反応を伺う「相手伺い」、(2)話者自身がこれから話す談話を整理するため、あるいは話すことが思い出せず、思考が続いていることを示す「話者思考中」、(3)相手からの割り込みがあり、途中で話が中断され、ターンを譲る「ターン譲り」の三つの談話機能である。さらにこれらの談話機能のあと、相手がどのような反応を示すか、分析をおこなった。結果、(1)話者の「相手伺い」の言いさしの後、相手は話者の発話から導かれる事柄を再度確認するなど談話における情報の流れを止め、談話を編集する発話を行っていた。(2)「話者思考中」の言いさしの後、相手は話者の発話を予測して、談話における情報の流れを促進させるような発話を行っていた。他方、(3)相手の割り込みにより話者の「ターン譲り」の言いさしの後は、相手は次の二つの反応をした。一つは話者の発話を促すなどして、談話を促進させたり、話者の発話から導かれる事柄の再確認などをして、談話を編集する場合である。二つは話者の発話の途中で割り込み発話をして、話を中断させる場合である。

話者の発話がまだ終わっていないにも関わらず、相手の実質的な発話が始まる行為は、一見、話者の「フェイス」(Brown & Levinson:1978)をおかす可能性があると思われる。しかし本研究が対象としたデータからは、相手の実質的な発話は、話者の発話を促したり、正しく理解したかどうか確認したりするという、コミュニケーションを円滑にするために多く行われていることが分かった。今後の課題は今回のような用件の明確な談話ではなく、雑談の場面では言いさし表現がどのような談話機能をもつか、さらにそれに続く相手の反応について明らかにしたいと思う。

注1: 面子または体面などに訳されることが多い。

## 参考文献

- (1) 池田裕 (1995) 「文末表現の重要性」『月刊言語』12 pp128-129
- (2) 熊谷智子 (1997) 「はたらきかけのやりとりとしての会話」『対話と知 談話の認知科学入門』新曜社 pp21-46
- (3) 杉戸清樹 (1987) 「発話のうけつぎ」『談話行動の諸相—座談資料の分析』国立国語研究所報告 92 三省堂 pp88-89
- (4) ポリー・ザトラウスキー (1993) 『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版 pp1-40
- (5) \_\_\_\_\_ (1990) 「発話の機能」『ケーススタディ日本語の文章・談話』おうふう pp140-151
- (6) 水谷信子 (1993) 「共話から対話へ」『日本語学』12-4 明治書院 pp4-10
- (7) \_\_\_\_\_ (1989) 『日本語教育の内容と方法：構文の日英比較を中心に』アルク pp42-54
- (8) Brown, P. and Levinson, S. C. (1978) “*Politeness : Some Universals in Language Usage*” Cambridge Univ. Press

(お茶の水女子大学大学院)

## The Leaving Unsaid Expression in Business Conversations

Cho Yung nam

The outcome of this research is to clarify what the function of leaving unsaid expressions can mean in business conversations and after the expression, what function has the object's reaction in those conversations.

The leaving unsaid expression has three conversation functions. The first is 'observing the object', if the speaker's words make the other man understood how it is or not. The second is 'the speaker's thinking', the speaker itself is thinking in order to arrange what he will say next, to say something, or the thoughts come of itself spontaneously. The third is 'the turning concession', that means the speaker concedes the right of speaking when it is interrupted.

The study reveals what reactions the object will make after three conversation functions occur as follow. As a result that object's response to speaker's talking make the conversation smoothed.

(Graduate school, Ochanomizu University)